

### 宇宙科学ロードマップに対する意見

2013.06.10 小野田淳次郎

我が国の宇宙科学プロジェクトは、ISASの宇宙理学委員会、宇宙工学委員会でプロジェクト候補を育成し、その中からコミュニティによる競争的選定を経て、実行してきた。この仕組みは限られたリソースの中でレベルの高い成果を上げることに大きく貢献してきた。今後も競争的仕組みは存続させるべきと考えるが、その場合、ある程度以上先の具体的計画を確定させることはできない。

一方、諸般の事情でプロジェクトの実行頻度が低下し、新たなプロジェクト実行の予見性が低下した近年の状況下では、新たなプロジェクトを発案する研究者コミュニティにとっても、国民への説明と言う意味でも、将来の流れを整理して示すことが従来以上に重要となっている。

このような状況下にある宇宙科学のロードマップ作成に当たっては、競争性と計画性を上手に整合させることが必須である。競争的選択以前の段階にある将来の計画については、個々の確定計画を示すことは困難ではあるが、プロジェクト規模ごとの必要な実行頻度等を含む大きな流れの考え方や、海外を含む各計画案間、各分野間の相互関係、想定される必要リソース等を含む整理されたビジョンをロードマップとして示すことが必要である。宇宙基本計画にもコミュニティのボトムアップで行うべきとされている宇宙科学のロードマップは、宇宙理学委員会、宇宙工学委員会でのこれまでの議論や、科学的価値のみならず技術的実現性等についても検討を行っているWGの現状を踏まえ、理学から工学までを俯瞰して、宇宙科学コミュニティの代表たるISASがこれを提示し、広く共有すべきである。

以上